
ガラスのむこうがわ

まう(・ ・)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガラスのむこうがわ

【Nコード】

N6180A

【作者名】

まう（．．）

【あらすじ】

心に傷を持つミノリと全て笑って忘れるキヨ。傷を負って苦しむのと笑ってなるべく傷付かないように逃げるのは、どちらが痛いですか？

傷の過去（前書き）

ケンちゃん、 ケンちゃん。 あなたは今、私をどんな風に見ていますか。私は、あなたに会えなくなってもう一年も経つというのに、好きが減るばかりが増す一方です。 ねえ、会いたいよ。
... そんなこと、思うことすら我儘になるのかな。

傷の過去

月をも隠す厚く大きな雲が、空を覆った。

それは途切れることなく

彼女の瞳に一筋の光さえも映すのを許さないかの様だ。

彼女、フカガワ ミノリは今夜も眠れない夜を過ごす。

こんな暇な時間は誰かにメールするよりも、電話をするよりも、ボロボロになったノートに思いつくまま言葉を並べた方が、とても良い暇つぶしになった。

自分が眠れない理由なんか随分昔に忘れてしまった。

それは手首に残る傷跡のみが、知っている。

それでいいのだ。

「ミノリ、またクマ出来てる」

「…いいよ、もう」

そんなんだから恋人出来ないのよ、と呆れながらカホは言った。

カホはギャルと真ん中って感じの女の子で、以前は似たような子が集まるグループに居ただけけど、馬が合わなかったのかこうしてミノリと行動するようになった。

「あ、そういえばさっきナカタニ君がミノリ探してたよ」

「誰？それ」

「うわ、ミノリやばいよ。ナカタニ君て有名じゃん！」

答えになってないよ、とミノリは小さく思った。

噂では確かに何度か耳にしたことがある名かもしれないが、彼とは何の接点も無かったので何かの間違いだろうとあまり気にしなかった。

「どうする？コクられたらさ」

「どうもしないよ」

「もー。ミノリって話が盛り上がらない」

今でもあの頃みたく好きだと言えますか。

本当に、もう誰かに心奪われるような あんな気持ちにはならない
だろう。

いや、なってはいけないんだ。

傷の過去（後書き）

駄文なのですが、読んでいただきありがとうございます！感想などありましたら気軽にどうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6180a/>

ガラスのむこうがわ

2010年12月10日22時47分発行